

## りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。  
 (2) 総量規制基準算定の基本式： $L$ （総量規制基準 kg/日）＝ $C$ （濃度 mg/l）× $Q$ （水量 m<sup>3</sup>/日）×10<sup>-3</sup>  
 実際に適用される基準の計算式： $L_n = (C_{p0} \cdot Q_{p0} + C_{pi} \cdot Q_{pi}) \times 10^{-3}$   
 (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排出水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（ $Q$ ）を業種等に区分する。  
 (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日により時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 $Q_{p0}$ （ $C_{p0}$ ）：平成14年9月30日までの水量  
 $Q_{pi}$ （ $C_{pi}$ ）：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8次業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		第7次から 変更なし
			下限	上限	
2	畜産農業	C <sub>p0</sub>	8	30	10
		C <sub>pi</sub>	8	9	8
3	天然ガス鉱業	C <sub>p0</sub>	2	3	3
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	2
4	非金属鉱業	C <sub>p0</sub>	1.5	3	3
		C <sub>pi</sub>	1.5	2.5	2
5	部分肉・冷凍肉製造業又は肉加工品製造業	C <sub>p0</sub>	4	16	5
		C <sub>pi</sub>	1	8	4
6	乳製品製造業	C <sub>p0</sub>	5	16	6
		C <sub>pi</sub>	1	8	4
7	畜産食料品製造業（前二項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	8	16	8
		C <sub>pi</sub>	1	8.5	5
8	水産缶詰・瓶詰製造業	C <sub>p0</sub>	3	5.5	5
		C <sub>pi</sub>	1.5	5.5	4
9	寒天製造業	C <sub>p0</sub>	3	7.5	5
		C <sub>pi</sub>	1.5	5.5	4
10	魚肉ハム・ソーセージ製造業	C <sub>p0</sub>	3	6	5
		C <sub>pi</sub>	1.5	5.5	4
11	水産練製品製造業（前項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	3	12	6
		C <sub>pi</sub>	1.5	8	5
12	冷凍水産物製造業	C <sub>p0</sub>	3	12	6
		C <sub>pi</sub>	1.5	8	5
13	冷凍水産食品製造業	C <sub>p0</sub>	4	12	6
		C <sub>pi</sub>	1	8	5
14	水産食料品製造業（整理番号8の項から前項までに掲げるものを除き、魚介類塩干・塩蔵品製造業を含む。）	C <sub>p0</sub>	3	12	6
		C <sub>pi</sub>	1.5	8	5
15	野菜缶詰・果実缶詰・農産保存食料品製造業	C <sub>p0</sub>	3	12	5
		C <sub>pi</sub>	1.5	5.5	3

注1：備考(例：「30の項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例：整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ。)

# りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。
- (2) 総量規制基準算定の基本式： $L$ （総量規制基準 kg/日）＝ $C$ （濃度 mg/l）× $Q$ （水量 m<sup>3</sup>/日）×10<sup>-3</sup>  
 実際に適用される基準の計算式： $L_n = (C_{p0} \cdot Q_{p0} + C_{pi} \cdot Q_{pi}) \times 10^{-3}$
- (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（ $Q$ ）を業種等に区分する。
- (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日により時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 $Q_{p0}$ （ $C_{p0}$ ）：平成14年9月30日までの水量  
 $Q_{pi}$ （ $C_{pi}$ ）：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8次業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		徳島県
			下限	上限	
16	野菜漬物製造業	C <sub>p0</sub>	3	7.5	4
		C <sub>pi</sub>	1.5	5.5	2.5
17	味そ製造業	C <sub>p0</sub>	4	7.5	5
		C <sub>pi</sub>	1.5	5.5	3
18	しょう油・食用アミノ酸製造業	C <sub>p0</sub>	8	9	8
		C <sub>pi</sub>	1.5	8.5	4
19	うま味調味料製造業	C <sub>p0</sub>	3	5.5	4
		C <sub>pi</sub>	1.5	5.5	3
20	ソース製造業	C <sub>p0</sub>	3	7.5	4
		C <sub>pi</sub>	1.5	5.5	3
21	食酢製造業	C <sub>p0</sub>	3	7.5	3
		C <sub>pi</sub>	1.5	5.5	2
22	砂糖精製業	C <sub>p0</sub>	3	4	3
		C <sub>pi</sub>	1.5	4	2
23	ぶどう糖・水あめ・異性化糖製造業	C <sub>p0</sub>	3	7.5	3
		C <sub>pi</sub>	1.5	5.5	2
24	小麦粉製造業	C <sub>p0</sub>	3	4	3
		C <sub>pi</sub>	1.5	4	2
25	パン製造業	C <sub>p0</sub>	3	7.5	6
		C <sub>pi</sub>	1.5	5.5	4
26	生菓子製造業	C <sub>p0</sub>	6	7.5	6.5
		C <sub>pi</sub>	1	6.5	4
27	ビスケット類・干菓子製造業	C <sub>p0</sub>	3	4	3
		C <sub>pi</sub>	1.5	4	2
28	米菓製造業	C <sub>p0</sub>	3	4	4
		C <sub>pi</sub>	1.5	4	3
29	パン・菓子製造業（整理番号25の項から前項までに掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	3	7.5	4
		C <sub>pi</sub>	1.5	5.5	3

注1：備考(例:「30の項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例:整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ。)

りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。
- (2) 総量規制基準算定の基本式： $L$ （総量規制基準 kg/日）＝ $C$ （濃度 mg/l）× $Q$ （水量 m<sup>3</sup>/日）×10<sup>-3</sup>  
 実際に適用される基準の計算式： $L_n = (C_{p0} \cdot Q_{p0} + C_{pi} \cdot Q_{pi}) \times 10^{-3}$
- (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（ $Q$ ）を業種等に区分する。
- (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日により時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 $Q_{p0}$ （ $C_{p0}$ ）：平成14年9月30日までの水量  
 $Q_{pi}$ （ $C_{pi}$ ）：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8次業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		第7次から 変更なし
			下限	上限	
30	植物油脂製造業	C <sub>p0</sub>	4	7.5	5
		C <sub>pi</sub>	1.5	5.5	3
30項の備考	米糠を原料として使用するものにあつては	C <sub>p0</sub>	4	16	10
		C <sub>pi</sub>	1.5	5.5	4
31	動物油脂製造業	C <sub>p0</sub>	2	4.5	4.5
		C <sub>pi</sub>	1	4.5	3
32	食用油脂加工業	C <sub>p0</sub>	3	4	4
		C <sub>pi</sub>	1.5	4	3
33	ふくらし粉・イースト・その他の酵母剤製造業	C <sub>p0</sub>	3	5.5	4
		C <sub>pi</sub>	1.5	5.5	2.5
34	穀類でんぷん製造業	C <sub>p0</sub>	3	10	6
		C <sub>pi</sub>	1.5	8	4
35	麺類製造業	C <sub>p0</sub>	3	7.5	4
		C <sub>pi</sub>	1.5	5.5	3
37	豆腐・油揚製造業	C <sub>p0</sub>	5	7.5	5.5
		C <sub>pi</sub>	1	5.5	3
38	あん類製造業	C <sub>p0</sub>	5	12	8
		C <sub>pi</sub>	1	8	5
39	冷凍調理食品製造業	C <sub>p0</sub>	8	9	8
		C <sub>pi</sub>	1	8.5	5
40	そう(惣)菜製造業のうち煮豆の製造に係るもの	C <sub>p0</sub>	4	7.5	6
		C <sub>pi</sub>	1.5	5.5	4
41	清涼飲料製造業	C <sub>p0</sub>	3	7.5	3.5
		C <sub>pi</sub>	1.5	3.5	2.5
42	果実酒製造業	C <sub>p0</sub>	3	4	3
		C <sub>pi</sub>	1.5	3.5	2
43	ビール製造業	C <sub>p0</sub>	3	4	3
		C <sub>pi</sub>	1.5	3.5	2

注1：備考(例：「30項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例：整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ。)

りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。
- (2) 総量規制基準算定の基本式： $L$ （総量規制基準 kg/日）＝ $C$ （濃度 mg/l）× $Q$ （水量 m<sup>3</sup>/日）×10<sup>-3</sup>  
 実際に適用される基準の計算式： $L_n = (C_{po} \cdot Q_{po} + C_{pi} \cdot Q_{pi}) \times 10^{-3}$
- (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（ $Q$ ）を業種等に区分する。
- (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日により時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 $Q_{po}$ （ $C_{po}$ ）：平成14年9月30日までの水量  
 $Q_{pi}$ （ $C_{pi}$ ）：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		第7次から 変更なし
			下限	上限	
44	清酒製造業	C <sub>po</sub>	3	4	3
		C <sub>pi</sub>	1.5	3.5	2
45	蒸留酒・混成酒製造業	C <sub>po</sub>	3	4	3
		C <sub>pi</sub>	1.5	3.5	2
46	インスタントコーヒー製造業	C <sub>po</sub>	3	4	3
		C <sub>pi</sub>	1.5	3.5	2
47	配合飼料製造業	C <sub>po</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	3	2
48	単体飼料製造業	C <sub>po</sub>	2	3.5	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	3	2
49	有機質肥料製造業	C <sub>po</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	3	2
50	たばこ製造業	C <sub>po</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	3	1.5
51	生糸製造業（副蚕糸精練業を含む。）	C <sub>po</sub>	2	5.5	2
		C <sub>pi</sub>	1	4.5	1
55	繊維工業（整理番号51の項に掲げるもの及び衣服その他の繊維製品に係るものを除く。以下同じ。）で整毛工程に係るもの	C <sub>po</sub>	2	5.5	4
		C <sub>pi</sub>	1	4.5	3
57	繊維工業で麻製織工程に係るもの	C <sub>po</sub>	2	4.5	4
		C <sub>pi</sub>	1	4.5	3
58	繊維工業で毛織物機械染色整理工程（のり抜き、精練漂白、シルケット加工その他の染色整理工程に付帯して行われる加工処理工程（以下「染色整理工程付帯加工処理工程」という。）を含む。）に係るもの	C <sub>po</sub>	2	6.5	4
		C <sub>pi</sub>	1	4.5	3
59	繊維工業で織物機械染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの（前項に掲げるものを除く。）	C <sub>po</sub>	2	6.5	4
		C <sub>pi</sub>	1	4.5	3

注1：備考(例:「30の項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例:整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ。)

りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。
- (2) 総量規制基準算定の基本式： $L$ （総量規制基準 kg/日）＝ $C$ （濃度 mg/l）× $Q$ （水量 m<sup>3</sup>/日）×10<sup>-3</sup>  
 実際に適用される基準の計算式： $L_n = (C_{po} \cdot Q_{po} + C_{pi} \cdot Q_{pi}) \times 10^{-3}$
- (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（ $Q$ ）を業種等に区分する。
- (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日により時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 $Q_{po}$ （ $C_{po}$ ）：平成14年9月30日までの水量  
 $Q_{pi}$ （ $C_{pi}$ ）：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8次業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		第7次から 変更なし
			下限	上限	
60	繊維工業で織物手加工染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	C <sub>po</sub>	2	5	4
		C <sub>pi</sub>	1	4.5	3
61	繊維工業で綿状繊維・糸染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	C <sub>po</sub>	2	6.5	4
		C <sub>pi</sub>	1	4.5	3
62	繊維工業でニット・レース染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	C <sub>po</sub>	2	6.5	4
		C <sub>pi</sub>	1	4.5	3
63	繊維工業で繊維雑品染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	C <sub>po</sub>	2	9	4
		C <sub>pi</sub>	1	4.5	3
64	繊維工業で不織布製造工程に係るもの	C <sub>po</sub>	2	6	4
		C <sub>pi</sub>	1	4.5	3
65	繊維工業でフェルト製造工程に係るもの	C <sub>po</sub>	2	3	3
		C <sub>pi</sub>	1	3	3
66	繊維工業で上塗りした織物及び防水した織物製造工程に係るもの	C <sub>po</sub>	2	4.5	4
		C <sub>pi</sub>	1	4.5	3
67	繊維工業で繊維製衛生材料製造工程に係るもの	C <sub>po</sub>	2	3	3
		C <sub>pi</sub>	1	3	3
68	繊維工業（整理番号55の項から前項に掲げるものを除く。）	C <sub>po</sub>	2	4.5	4
		C <sub>pi</sub>	1	4.5	3
69	一般製材業又は木材チップ製造業	C <sub>po</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
71	合板製造業（集材材製造業を含む。）又はパーティクルボード製造業	C <sub>po</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
75	木材薬品処理業	C <sub>po</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
76	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で溶解パルプ製造工程に係るもの	C <sub>po</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5

注1：備考(例:「30の項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例:整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ。)

りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。
- (2) 総量規制基準算定の基本式： $L$ （総量規制基準 kg/日）＝ $C$ （濃度 mg/l）× $Q$ （水量 m<sup>3</sup>/日）×10<sup>-3</sup>  
 実際に適用される基準の計算式： $L_n = (C_{p0} \cdot Q_{p0} + C_{pi} \cdot Q_{pi}) \times 10^{-3}$
- (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排出水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（ $Q$ ）を業種等に区分する。
- (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日により時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 $Q_{p0}$ （ $C_{p0}$ ）：平成14年9月30日までの水量  
 $Q_{pi}$ （ $C_{pi}$ ）：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8次業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		徳島県
			下限	上限	
77	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でサルファイトパ ルプ製造工程に係るもの	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
78	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でグランドパルプ 製造工程、リファイナーグランドパルプ製造工程又はサーモ メカニカルパルプ製造工程に係るもの	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
79	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で未さらしケミグ ランドパルプ製造工程又は未さらしセミケミカルパルプ製造 工程に係るもの（次項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
80	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でさらしケミグ ランドパルプ製造工程（前工程の未さらしケミグランドパルプ 製造工程を含む。）又はさらしセミケミカルパルプ製造工程 （前工程の未さらしセミケミカルパルプ製造工程を含む。） に係るもの	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
81	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で未さらしクラフ トパルプ製造工程に係るもの（次項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
82	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でさらしクラフト パルプ製造工程（前工程の未さらしクラフトパルプ製造工程 を含む。）に係るもの	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
83	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で古紙を原料とす るパルプ製造工程に係るもの（次項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
84	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で古紙を原料とし 脱インキ又は漂白を行うパルプ製造工程（前工程の離解工程 を含む。）に係るもの	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
85	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で木材又は古紙以 外のものを原料とするパルプ製造工程に係るもの	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5

注1：備考(例:「30の項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例:整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ。)

りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。
- (2) 総量規制基準算定の基本式： $L$ （総量規制基準 kg/日）＝ $C$ （濃度 mg/l）× $Q$ （水量 m<sup>3</sup>/日）×10<sup>-3</sup>  
 実際に適用される基準の計算式： $L_n = (C_{p0} \cdot Q_{p0} + C_{pi} \cdot Q_{pi}) \times 10^{-3}$
- (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排出水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（ $Q$ ）を業種等に区分する。
- (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日により時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 $Q_{p0}$ （ $C_{p0}$ ）：平成14年9月30日までの水量  
 $Q_{pi}$ （ $C_{pi}$ ）：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8次業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		第7次から 変更なし
			下限	上限	
86	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でグランドパルプ、リファイナードパルプ又はサーモメカニカルパルプを主原料とする洋紙製造工程（前工程のグランドパルプ、リファイナードパルプ又はサーモメカニカルパルプ製造工程を有するものに限る。）に係るもの	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
87	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で洋紙製造工程に係るもの（前項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
88	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で板紙製造工程に係るもの	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
89	機械すき和紙製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
90	手すき和紙製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
91	塗工紙製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
92	段ボール製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
93	重包装紙袋製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
94	セロファン製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
95	乾式法による繊維板製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
96	繊維板製造業（前項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
97	パルプ製造業、紙製造業又は紙加工品製造業（整理番号76の項から前項までに掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5

注1：備考(例：「30の項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例：整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ。)

# りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。
- (2) 総量規制基準算定の基本式： $L$ （総量規制基準 kg/日）＝ $C$ （濃度 mg/l）× $Q$ （水量 m<sup>3</sup>/日）×10<sup>-3</sup>  
 実際に適用される基準の計算式： $L_n = (C_{po} \cdot Q_{po} + C_{pi} \cdot Q_{pi}) \times 10^{-3}$
- (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（ $Q$ ）を業種等に区分する。
- (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日より時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 $Q_{po}$ （ $C_{po}$ ）：平成14年9月30日までの水量  
 $Q_{pi}$ （ $C_{pi}$ ）：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8次業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		第7次から 変更なし
			下限	上限	
100	印刷業（新聞その他の出版物を印刷するものを含む。）	C <sub>po</sub>	2	4.5	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	3.5	2
101	製版業	C <sub>po</sub>	2	4.5	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	3.5	2
102	窒素質・りん酸質肥料製造業	C <sub>po</sub>	2	26.5	16
		C <sub>pi</sub>	1	26.5	8
103	複合肥料製造業	C <sub>po</sub>	2	26.5	12
		C <sub>pi</sub>	1	26.5	6
104	化学肥料製造業（前二項に掲げるものを除く。）	C <sub>po</sub>	2	3	3
		C <sub>pi</sub>	1	3	3
105	ソーダ工業	C <sub>po</sub>	2	4	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	2
106	電炉工業	C <sub>po</sub>	2	3.5	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
107	無機顔料製造業	C <sub>po</sub>	2	4	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	2
108	無機化学工業製品製造業（整理番号105の項から前項までに掲げるものを除く。）	C <sub>po</sub>	2	5	3
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	2
108項の備考	りん及びりん化合物製造工程にあつては	C <sub>po</sub>	2	40	7
		C <sub>pi</sub>	1	8	3
109	石油化学系基礎製品製造業で脂肪族系中間物製造工程に係るもの	C <sub>po</sub>	2	4	3
		C <sub>pi</sub>	1	3.5	2
109項の備考	りん又はその化合物を原料、触媒又は中和剤として使用するものにあつては	C <sub>po</sub>	6.5	8	6.5
		C <sub>pi</sub>	4	8	4
110	石油化学系基礎製品製造業で環式中間物・合成染料・有機顔料製造工程に係るもの	C <sub>po</sub>	2	3.5	3
		C <sub>pi</sub>	1	3	2
110項の備考	りん又はその化合物を原料、触媒又は中和剤として使用するものにあつては	C <sub>po</sub>	6.5	8	6.5
		C <sub>pi</sub>	4	8	4

注1：備考(例:「30の項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例:整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ。)

りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。
- (2) 総量規制基準算定の基本式： $L$ （総量規制基準 kg/日）＝ $C$ （濃度 mg/l）× $Q$ （水量 m<sup>3</sup>/日）×10<sup>-3</sup>  
 実際に適用される基準の計算式： $L_n = (C_{p0} \cdot Q_{p0} + C_{pi} \cdot Q_{pi}) \times 10^{-3}$
- (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（ $Q$ ）を業種等に区分する。
- (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日により時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 $Q_{p0}$ （ $C_{p0}$ ）：平成14年9月30日までの水量  
 $Q_{pi}$ （ $C_{pi}$ ）：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8次業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		第7次から 変更なし
			下限	上限	
111	石油化学系基礎製品製造業でプラスチック製造工程に係るもの	C <sub>p0</sub>	2	5	3
		C <sub>pi</sub>	1	3	2
112	石油化学系基礎製品製造業で合成ゴム製造工程に係るもの	C <sub>p0</sub>	2	3.5	3
		C <sub>pi</sub>	1	3	2
113	石油化学系基礎製品製造業で有機化学工業製品製造工程（脂肪族系中間物製造工程、環式中間物・合成染料・有機顔料製造工程、プラスチック製造工程及び合成ゴム製造工程を除く。）に係るもの	C <sub>p0</sub>	2	3.5	3
		C <sub>pi</sub>	1	3	2
113項の備考	りん又はその化合物を原料、触媒又は中和剤として使用するものにあつては	C <sub>p0</sub>	6.5	8	6.5
		C <sub>pi</sub>	4	8	4
114	石油化学系基礎製品製造業（整理番号109の項から前項までに掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3.5	3
		C <sub>pi</sub>	1	3	2
115	脂肪族系中間物製造業	C <sub>p0</sub>	2	5	3.5
		C <sub>pi</sub>	1	3.5	2.5
115項の備考	りん又はその化合物を原料、触媒又は中和剤として使用するものにあつては	C <sub>p0</sub>	6.5	24	8
		C <sub>pi</sub>	4	8	5
116	メタン誘導品製造業	C <sub>p0</sub>	2	3.5	2
		C <sub>pi</sub>	1	3	1.5
117	発酵工業	C <sub>p0</sub>	2	4	3
		C <sub>pi</sub>	1	3	2
118	コールタール製品製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	3
		C <sub>pi</sub>	1	3	2
119	環式中間物・合成染料・有機顔料製造業	C <sub>p0</sub>	2	5	3.5
		C <sub>pi</sub>	1	3	2
119項の備考	りん又はその化合物を原料、触媒又は中和剤として使用するものにあつては	C <sub>p0</sub>	6.5	24	6.5
		C <sub>pi</sub>	4	8	4
120	プラスチック製造業	C <sub>p0</sub>	2	3.5	3
		C <sub>pi</sub>	1	3	2

注1：備考(例：「30の項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例：整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ。)

りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。
- (2) 総量規制基準算定の基本式： $L$ （総量規制基準 kg/日）＝ $C$ （濃度 mg/l）× $Q$ （水量 m<sup>3</sup>/日）×10<sup>-3</sup>  
 実際に適用される基準の計算式： $L_n = (C_{p0} \cdot Q_{p0} + C_{pi} \cdot Q_{pi}) \times 10^{-3}$
- (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（ $Q$ ）を業種等に区分する。
- (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日により時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 $Q_{p0}$ （ $C_{p0}$ ）：平成14年9月30日までの水量  
 $Q_{pi}$ （ $C_{pi}$ ）：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8次業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		第7次から 変更なし
			下限	上限	
121	合成ゴム製造業	C <sub>p0</sub>	2	3.5	3
		C <sub>pi</sub>	1	3	2
122	有機化学工業製品製造業（整理番号109の項から前項までに掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	5	3.5
		C <sub>pi</sub>	1	3	2
122項の備考	有機りん系農業原体製造工程にあつては	C <sub>p0</sub>	2	60	16
		C <sub>pi</sub>	1	3	3
123	レーヨン・アセテート製造業のうちレーヨンの製造に係るもの	C <sub>p0</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
124	レーヨン・アセテート製造業のうちアセテートの製造に係るもの	C <sub>p0</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
125	合成繊維製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
126	脂肪酸・硬化油・グリセリン製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
127	石けん・合成洗剤製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
128	界面活性剤製造業（前項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
129	塗料製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
130	印刷インキ製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
131	医薬品原薬・製剤製造業	C <sub>p0</sub>	2	6	4
		C <sub>pi</sub>	1	5	2.5
131項の備考	医薬品原薬製造工程（りん又はその化合物を原料として使用するものに限る。）にあつては	C <sub>p0</sub>	4	8	7
		C <sub>pi</sub>	1	5	3
132	医薬品製剤製造業	C <sub>p0</sub>	2	3.5	3
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5

注1：備考(例：「30の項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例：整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ。)

## りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。  
 (2) 総量規制基準算定の基本式：L（総量規制基準 kg/日）=C（濃度 mg/l）×Q（水量 m<sup>3</sup>/日）×10<sup>-3</sup>  
 実際に適用される基準の計算式：L<sub>n</sub>=(C<sub>p0</sub>・Q<sub>p0</sub>+C<sub>pi</sub>・Q<sub>pi</sub>)×10<sup>-3</sup>  
 (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排出水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（Q）を業種等に区分する。  
 (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日により時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 Q<sub>p0</sub>（C<sub>p0</sub>）：平成14年9月30日までの水量  
 Q<sub>pi</sub>（C<sub>pi</sub>）：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8次業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		徳島県
			下限	上限	
133	生物学的製剤製造業	C <sub>p0</sub>	2	5	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
134	生薬・漢方製剤製造業	C <sub>p0</sub>	2	3.5	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
135	動物用医薬品製造業	C <sub>p0</sub>	2	3.5	3
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	2
136	火薬類製造業	C <sub>p0</sub>	2	4	3
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
137	農薬製造業	C <sub>p0</sub>	2	4	3.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	2
138	合成香料製造業	C <sub>p0</sub>	2	4	3
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	2
139	香料製造業（前項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	4	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
140	化粧品・歯磨・その他の化粧用調整品製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	3
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
142	ゼラチン・接着剤製造業（にかわ製造業を含む。）	C <sub>p0</sub>	2	4	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
143	写真感光材料製造業	C <sub>p0</sub>	2	4	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
144	天然樹脂製品・木材化学製品製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
145	イオン交換樹脂製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
146	化学工業（整理番号102の項から前項までに掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	4	4
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	2
147	石油精製業	C <sub>p0</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5

注1：備考(例：「30の項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例：整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ。)

りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。
- (2) 総量規制基準算定の基本式： $L$ （総量規制基準 kg/日）＝ $C$ （濃度 mg/l）× $Q$ （水量 m<sup>3</sup>/日）×10<sup>-3</sup>  
 実際に適用される基準の計算式： $L_n = (C_{p0} \cdot Q_{p0} + C_{pi} \cdot Q_{pi}) \times 10^{-3}$
- (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排出水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（ $Q$ ）を業種等に区分する。
- (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日により時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 $Q_{p0}$ （ $C_{p0}$ ）：平成14年9月30日までの水量  
 $Q_{pi}$ （ $C_{pi}$ ）：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8次業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		徳島県
			下限	上限	
148	潤滑油製造業（前項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
149	コークス製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
150	石油コークス製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
151	自動車タイヤ・チューブ製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
152	ゴム製品製造業でラテックス成型型洗浄工程に係るもの	C <sub>p0</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
153	ゴム製品製造業（前二項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3	3
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
154	なめしかわ製造業	C <sub>p0</sub>	2	14.5	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	14.5	1.5
155	毛皮製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	3	1.5
156	板ガラス製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1
157	板ガラス加工業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1
158	ガラス製加工素材製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1
159	ガラス容器製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1
160	理化学用・医療用ガラス器具製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1
161	卓上用・ちゅう房用ガラス器具製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1

注1：備考(例:「30の項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例:整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ。)

りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。
- (2) 総量規制基準算定の基本式： $L$ （総量規制基準 kg/日）＝ $C$ （濃度 mg/l）× $Q$ （水量 m<sup>3</sup>/日）×10<sup>-3</sup>  
 実際に適用される基準の計算式： $L_n = (C_{p0} \cdot Q_{p0} + C_{pi} \cdot Q_{pi}) \times 10^{-3}$
- (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（ $Q$ ）を業種等に区分する。
- (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日により時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 $Q_{p0}$ （ $C_{p0}$ ）：平成14年9月30日までの水量  
 $Q_{pi}$ （ $C_{pi}$ ）：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		第7次から 変更なし
			下限	上限	
162	ガラス繊維（長繊維に限る。）・同製品製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1
163	ガラス繊維・同製品製造業（前項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1
164	ガラス・同製品製造業（整理番号156の項から前項までに掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1
165	生コンクリート製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
166	コンクリート製品製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
167	セメント製品製造業（前二項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
168	黒鉛電極製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
169	砕石製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
170	鉱物・土石粉碎等処理業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
172	うわ薬製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
173	高炉による製鉄業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
175	フェロアロイ製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
176	高炉によらない製鉄業（前項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5

注1：備考(例:「30の項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例:整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ。)

りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。
- (2) 総量規制基準算定の基本式： $L$ （総量規制基準 kg/日）＝ $C$ （濃度 mg/l）× $Q$ （水量 m<sup>3</sup>/日）×10<sup>-3</sup>  
 実際に適用される基準の計算式： $L_n = (C_{p0} \cdot Q_{p0} + C_{pi} \cdot Q_{pi}) \times 10^{-3}$
- (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排出水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（ $Q$ ）を業種等に区分する。
- (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日により時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 $Q_{p0}$ （ $C_{p0}$ ）：平成14年9月30日までの水量  
 $Q_{pi}$ （ $C_{pi}$ ）：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8次業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		徳島県
			下限	上限	
178	製鋼・製鋼圧延業（転炉（単独転炉を含む。）又は電気炉（単独電気炉を含む。）によるものに限る。）	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
179	熱間圧延業（整理番号182の項及び同183の項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
180	冷間圧延業（整理番号182の項及び同183の項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
181	冷間ロール成型形鋼製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
182	鋼管製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
183	伸鉄業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
184	磨棒鋼製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
185	引抜鋼管製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
186	伸線業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
187	ブリキ製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
188	亜鉛鉄板製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
189	めっき鋼管製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
190	めっき鉄鋼線製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5

注1：備考(例:「30の項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例:整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ。)

りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。
- (2) 総量規制基準算定の基本式： $L$ （総量規制基準 kg/日）＝ $C$ （濃度 mg/l）× $Q$ （水量 m<sup>3</sup>/日）×10<sup>-3</sup>  
 実際に適用される基準の計算式： $L_n = (C_{p0} \cdot Q_{p0} + C_{pi} \cdot Q_{pi}) \times 10^{-3}$
- (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（ $Q$ ）を業種等に区分する。
- (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日により時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 $Q_{p0}$ （ $C_{p0}$ ）：平成14年9月30日までの水量  
 $Q_{pi}$ （ $C_{pi}$ ）：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8次業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		第7次から 変更なし
			下限	上限	
191	表面処理鋼材製造業（整理番号187の項から前項までに掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
192	鍛鋼製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
193	鍛工品製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
194	鋳鋼製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
195	せん鉄鋳物製造業（次項及び整理番号197の項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
196	鋳鉄管製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
197	可鍛鋳鉄製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
198	鉄粉製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
199	鉄鋼業（整理番号173の項から前項までに掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
200	非鉄金属製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	1.5
201	電気めっき業	C <sub>p0</sub>	2	4	3
		C <sub>pi</sub>	1	3.5	2
201項の備考	りん又はその化合物による表面処理施設を設置するものにあつては	C <sub>p0</sub>	4	8	6
		C <sub>pi</sub>	1	4.5	3
202	金属製品製造業（前項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	5.5	3
		C <sub>pi</sub>	1	3.5	2
202項の備考 (1)	溶融めっき工程（りん又はその化合物による表面処理施設を設置するものに限る。）にあつては	C <sub>p0</sub>	4	8	6
		C <sub>pi</sub>	1	4.5	3

注1：備考(例：「30の項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例：整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ)。

りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。
- (2) 総量規制基準算定の基本式： $L$ （総量規制基準 kg/日）＝ $C$ （濃度 mg/l）× $Q$ （水量 m<sup>3</sup>/日）×10<sup>-3</sup>  
 実際に適用される基準の計算式： $L_n = (C_{p0} \cdot Q_{p0} + C_{pi} \cdot Q_{pi}) \times 10^{-3}$
- (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（ $Q$ ）を業種等に区分する。
- (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日により時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 $Q_{p0}$ （ $C_{p0}$ ）：平成14年9月30日までの水量  
 $Q_{pi}$ （ $C_{pi}$ ）：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8次業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		第7次から 変更なし
			下限	上限	
202項の備考 (2)	アルマイト加工工程（りん又はその化合物による表面処理施設を設置するものに限る。）にあつては	C <sub>p0</sub>	8	50	16
		C <sub>pi</sub>	1	8.5	7
203	一般機械器具製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	2
204	電子回路製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	2
205	電子部品・デバイス・電子回路製造業（前項に掲げるものを除く）、電気機械器具製造業又は情報通信機械器具製造業	C <sub>p0</sub>	2	3	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	2.5	2
205項の備考	民生用電気機械器具製造工程（りん又はその化合物による表面処理施設を設置するものに限る。）にあつては	C <sub>p0</sub>	6	7	6
		C <sub>pi</sub>	1	6.5	3
206	輸送用機械器具製造業	C <sub>p0</sub>	2	4	3
		C <sub>pi</sub>	1	3.5	2
206項の備考	自動車・同付属品製造工程（りん又はその化合物による表面処理施設を設置するものに限る。）にあつては	C <sub>p0</sub>	4	8	4
		C <sub>pi</sub>	1	4.5	2
207	精密機械器具製造業	C <sub>p0</sub>	2	3.5	3
		C <sub>pi</sub>	1	3	2
208	ガス製造工場	C <sub>p0</sub>	2	3.5	2
		C <sub>pi</sub>	1	3.5	1.5
209	下水道業	C <sub>p0</sub>	1	4	3
		C <sub>pi</sub>	1	4	2
209項の備考 (1)	標準活性汚泥法その他これと同程度に下水中のりんを除去できる方法より高度に下水中のりんを除去できる方法により下水を処理するもの（高濃度のりんを含有する汚水を多量に受け入れて処理するものを除く。）にあつては	C <sub>p0</sub>	1	2	2
		C <sub>pi</sub>	1	2	1

注1：備考(例：「30の項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例：整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ。)

りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。
- (2) 総量規制基準算定の基本式： $L$ （総量規制基準 kg/日）＝ $C$ （濃度 mg/l）× $Q$ （水量 m<sup>3</sup>/日）×10<sup>-3</sup>  
 実際に適用される基準の計算式： $L_n = (C_{p0} \cdot Q_{p0} + C_{pi} \cdot Q_{pi}) \times 10^{-3}$
- (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（ $Q$ ）を業種等に区分する。
- (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日より時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 $Q_{p0}$ （ $C_{p0}$ ）：平成14年9月30日までの水量  
 $Q_{pi}$ （ $C_{pi}$ ）：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		徳島県
			下限	上限	
209項の備考 (2)	高濃度のりんを含有する汚水を多量に受け入れて処理するもの（標準活性汚泥法その他これと同程度に下水中のりんを除去できる方法により下水を処理するものに限る。）にあつては	C <sub>p0</sub>	1	8	4
		C <sub>pi</sub>	1	8	2.5
210	空瓶卸売業	C <sub>p0</sub>	4	5	4
		C <sub>pi</sub>	2	4.5	2
211	共同調理場（学校給食法（昭和29年法律第百六十号）第六条に規定する施設をいう。）	C <sub>p0</sub>	4	5	4
		C <sub>pi</sub>	2	4.5	2
212	弁当仕出屋又は弁当製造業	C <sub>p0</sub>	4	10	6
		C <sub>pi</sub>	2	4.5	3
213	飲食店	C <sub>p0</sub>	4	8	4
		C <sub>pi</sub>	2	5	2
214	宿泊業	C <sub>p0</sub>	4	5	4
		C <sub>pi</sub>	2	4.5	2
215	リネンサプライ業	C <sub>p0</sub>	5	8	6
		C <sub>pi</sub>	1	6	3
216	洗濯業（前項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	5	8	5
		C <sub>pi</sub>	1	6	2
218	写真業（写真現像・焼付業を含む。）	C <sub>p0</sub>	4	5	4
		C <sub>pi</sub>	2	4.5	2
219	自動車整備業	C <sub>p0</sub>	4	5	4
		C <sub>pi</sub>	2	4.5	2
220	病院	C <sub>p0</sub>	4	5	4
		C <sub>pi</sub>	2	4.5	2
221	し尿浄化槽（建築基準法施行令（昭和25年政令第三百三十八号）第三十二条第一項の表に規定する算定方法により算定した処理人員が501人以上のものに限る。）	C <sub>p0</sub>	2	8	4
		C <sub>pi</sub>	1	4	2

注1：備考(例:「30の項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例:整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ。)

りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。
- (2) 総量規制基準算定の基本式： $L$ （総量規制基準 kg/日）＝ $C$ （濃度 mg/l）× $Q$ （水量 m<sup>3</sup>/日）×10<sup>-3</sup>  
 実際に適用される基準の計算式： $L_n = (C_{p0} \cdot Q_{p0} + C_{pi} \cdot Q_{pi}) \times 10^{-3}$
- (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（ $Q$ ）を業種等に区分する。
- (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日により時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 $Q_{p0}$  ( $C_{p0}$ )：平成14年9月30日までの水量  
 $Q_{pi}$  ( $C_{pi}$ )：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8次業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		第7次から 変更なし
			下限	上限	
221項の備考	第二欄に規定する表又は建築基準法施行令第三十二条第三項第二号に規定する技術上の基準を満たす構造のし尿浄化槽より高度にし尿を処理することができる方法によりし尿を処理するものにあつては	C <sub>p0</sub>	1	3	3
		C <sub>pi</sub>	1	3	2
222	し尿浄化槽（建築基準法施行令第三十二条第一項の表に規定する算定方法により算定した処理対象人員が201人以上500人以下のものに限る。）	C <sub>p0</sub>	2	8	4
		C <sub>pi</sub>	1	5	2
222項の備考 (1)	第二欄に規定する表又は建築基準法施行令第三十二条第三項第二号に規定する技術上の基準を満たす構造のし尿浄化槽より高度にし尿を処理することができる方法によりし尿を処理するものにあつては	C <sub>p0</sub>	1	3.5	3
		C <sub>pi</sub>	1	3.5	2
222項の備考 (2)	単独浄化槽に係るもの	C <sub>p0</sub>	2	8	7
		C <sub>pi</sub>	1	5	3.5
223	し尿処理業（し尿浄化槽に係るものを除く。）	C <sub>p0</sub>	2	8	2.5
		C <sub>pi</sub>	1	4	1.5
223項の備考	嫌気性消化法、好気性消化法、湿式酸化法又は活性汚泥法に凝集処理法を加えた方法より高度にし尿を処理することができる方法によりし尿を処理するものにあつては	C <sub>p0</sub>	2	4	2
		C <sub>pi</sub>	1	3	1.5
224	ごみ処理業	C <sub>p0</sub>	4	5	4
		C <sub>pi</sub>	2	4.5	2
225	廃油処理業	C <sub>p0</sub>	4	5	4
		C <sub>pi</sub>	2	4.5	2
226	産業廃棄物処理業（前項に掲げるものを除く。）	C <sub>p0</sub>	4	8	5
		C <sub>pi</sub>	1	4.5	2.5
227	死亡獣畜取扱業	C <sub>p0</sub>	4	5	4
		C <sub>pi</sub>	2	4.5	2

注1：備考(例：「30の項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例：整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ。)

りん含有量に係る総量規制基準（案）

資料1-8

- (1) 第8次の総量規制基準については第7次の規制値（C値）を維持する。業種区分及び時期区分も変更なし。
- (2) 総量規制基準算定の基本式： $L$ （総量規制基準 kg/日）＝ $C$ （濃度 mg/l）× $Q$ （水量 m<sup>3</sup>/日）× $10^{-3}$   
 実際に適用される基準の計算式： $L_n = (C_{p0} \cdot Q_{p0} + C_{pi} \cdot Q_{pi}) \times 10^{-3}$
- (3) 業種等の区分：指定地域内事業場の排出水のうち、冷却水等を除く水（特定排水）の届出最大水量（ $Q$ ）を業種等に区分する。
- (4) 時期の区分：業種等ごとに区分した特定排水の量を、関係する特定施設の設置・更新日により時期を区分する。  
 基本的な時期区分は次のとおり。（ ）内は対応するC値。  
 $Q_{p0}$ （ $C_{p0}$ ）：平成14年9月30日までの水量  
 $Q_{pi}$ （ $C_{pi}$ ）：平成14年10月1日以後に増加した水量

整理番号	第8次業種その他の区分 (及びその区分)  第7次から 変更なし	第8次C <sub>p</sub> 等 時期区分  第7次から 変更なし	第8次C値範囲		第8次C値 (案)
			第7次から 変更なし  大阪湾を除く 瀬戸内海		徳島県
			下限	上限	
228	と畜場	C <sub>p0</sub>	4	10	5
		C <sub>pi</sub>	2	4.5	3
229	中央卸売市場	C <sub>p0</sub>	4	5	4
		C <sub>pi</sub>	2	4.5	2
230	地方卸売市場	C <sub>p0</sub>	4	5	4
		C <sub>pi</sub>	2	4.5	2
231	試験研究機関（規則第一条の二各号に掲げるものをいう。）	C <sub>p0</sub>	4	5	4
		C <sub>pi</sub>	2	4.5	2
232	整理番号2の項から前項までに分類されないもの	C <sub>p0</sub>	1	8	7
		C <sub>pi</sub>	1	8	6
232項の備考 (1)	指定地域内事業場のし尿又は雑排水（221の項及び222の項に係るものを除く。）	C <sub>p0</sub>	1	8	5
		C <sub>pi</sub>	1	8	3
232項の備考 (2)	水産養殖施設（当該施設からの排水の1日当たりの通常の量が50m <sup>3</sup> 以上のものに限る。）	C <sub>p0</sub>	1	8	8
		C <sub>pi</sub>	1	8	6
232項の備考 (3)	食料品製造業	C <sub>p0</sub>	1	8	5
		C <sub>pi</sub>	1	8	3
232項の備考 (4)	浄水施設（水質汚濁防止法施行令別表第1第64号の2に規定するものをいう。）	C <sub>p0</sub>	1	8	1.5
		C <sub>pi</sub>	1	8	1
232項の備考 (5)	火力発電所の発電プラント排水	C <sub>p0</sub>	1	8	3
		C <sub>pi</sub>	1	8	2

注1：備考(例：「30の項の備考」)の項中の「C値の幅」の欄には、元の項(例：整理番号30の項)と値が異なる場合にのみ数字を記載(空白の場合は、元の項の値と同じ。)